

## 1 言語を洗練すること

私たちは言語によってしか意思疎通できません。「見た目が9割」などと巷間言われますが、意思や意図の伝達、学問の伝承・継承はノンバーバルでは不可能です。

その文脈でとらえると、言語は教職にある限りずっと、絶えず言語の洗練に精励すべき。教育実習にあたり、以下の2点から、言語洗練の端緒に就いて欲しいものです。

### (1) 意思を言語化

**教育とは「人間に他から意図をもって働きかけ、望ましい姿に変化させ、価値を実現する活動」**(広辞苑第五版)だとされます。いずれの教科、生徒指導、特別活動、探究活動であっても、意図をもって働きかけるにあたり、最適な言語を駆使できなければ、望ましい変容につながりません。

具体的には、重文・複文を避け、単文を活用して端的に伝える工夫をする。間をフル活用して緩急・軽重をつけることで、生徒のインパクト・印象を高める。50分間で生徒がバタバタと落伍する授業は、生徒のせいではなく、教師の話術の敗北なのでは？

さらにそれぞれの科目・単元特有の世界観をありありと提示して没入させる授業を。目に見えないミクロの世界、電気や力学も、逆にマクロの宇宙や地殻変動も、中世ヨーロッパも、平安貴族の習俗も、数式のリテラシーも、運動技能の向上も。まるで映画に没入しているように、心躍らせ手に汗握るように、生徒に示してください。

### (2) 言語化は意識化

あなたは、自転車に乗りたい子供、泳ぎたい子供に、どうやって教えますか？

ご自身が、初めて自転車に乗れた、初めて泳げた経験を思い出しませんか？私たちは、自転車でも水泳といった運動技能でも、立ち居振る舞い、立ち姿でも、無意識のうちに獲得しているのです。それは身体に関わる例に限らず、民主主義などの価値観もそう、微分積分などの概念もそう。

そうやって、私たちが無意識のうちに獲得してきたものを、意識化(＝言語化)なくては、教えることになりません。教育実習にあたり、自身の教育観、価値観、人としての在り方生き方で大切にしてきたもの等々を、適切かつ的確に意識化(＝言語化)できるよう、その端緒についてください。それは採用試験の対策につながり、教師として思いや考えを的確に伝達するスキルに、指導力のある教師につながります。

## 2 存在で垂範する教師になる

教師は生徒に侮られないように、ナメられないようにと気負っていませんか。ご自身が学生時代に尊敬した先生を思い出してください。尊敬し慕った先生は、虚勢を張り、体裁を取り繕う人でしたか？きっとその先生は、親身で、誠実で、ご自分の弱さに正直で、失敗しても真摯な方ではなかったですか？ぜひあなたも、あなたの存在自体で、生徒に範を垂れてください。

### (1) 根拠を追究すること

最近クリティカル・シンキング(批判的思考)とよく聞きます。これはすべての事象を批判しろ、シニカルに構えろという主張ではないと思います。クリティカル・シンキングに不可欠なのは、根拠に基づくことです。私は、Evidence Basedと同義だと考えます。

ウクライナをはじめ国際情勢が流動化しています。コロナでも理性に基づいた行動が求められました。SDG'sも然り。

「なぜそう感じたのか」「その価値判断はどうか」「それは妥当、適切か」を絶えず自身に問い、他者に問う姿勢は、教職にある限り堅持すべきです。

### (2) 内省(＝リフレクティブ)、柔軟性(＝フレキシブル)

内省とは、「これで本当に良かったのだろうか」「もっと良いアプローチがあるのではないか」「先輩の先生はどうされているのか」ということ。「うまくいかないのは生徒が悪い」と転嫁してしまうと、教師としての成長は止まります。

失敗してください。弱音を吐いてください。泣き言を言ってください。そしてそうであっても諦めず工夫し、少しでも前へとあがく真摯さを、生徒に見せてください。

柔軟性とはしなやかさ、シャーペンの芯のようにポキッと折れないことです。「疾風に勁草を知る」と「実るほど首を垂れる稲穂かな」とは、神々しいまでに真理だと思います。

柔軟性を失うとストレス耐性が低下し、メンタルに悪影響を及ぼします。「教師はブラック」と言われますが、メンタルヘルスのためにも、涼やかに、しなやかに、それでいてたくましく世渡りし、輝かしく躍動し、生徒に鮮やかに印象づけてほしいと、切に願います。